

# 施策評価シート(令和元年度)

(基本施策の大綱) 1. 快適さを支える生活基盤の向上

(基本施策) (10) 歴史文化の継承・活用

(評価担当者)

生活文化部長 佐久間 利夫

## 基本施策が目指す姿

市民が、地域の歴史文化を学び、郷土に誇りを持っています。

## 関連する分野別計画

## 成果指標

	単位	現状値		実績値					目標値
		H29	H30	R1	R2	R3			
1	国・県・市の指定等を受ける文化財の数	件	132	H27	133	133	135		135
2	歴史博物館の利用者数	人	11,561	H27	11,314	11,062	11,080		13,000
3									
4									
5									

## 市民アンケート調査

項目	現状値 [H27]	1次 [H30]	2次 [R2]	市民アンケートの考察
1 歴史や文化をいかしたまちづくりが行われている	重要度	0.81	0.75	歴史文化に対する市民の関心があまり高まっていない様子が見受けられるため、歴史博物館の取組や鈴鹿閑跡の調査の進捗状況などについて更なる広報を行うことも必要である。
	満足度	0.02	0.15	
2	重要度			
	満足度			
3	重要度			
	満足度			
4	重要度			
	満足度			
5	重要度			
	満足度			

## 総合評価

総合判定	左記の総合判定とした理由
<b>B</b> まずまず進んでいる	歴史博物館の活用と地域・学校での学習の展開では市民団体との協働事業による「亀山市の戦争遺跡マップ」を作成するほか、学校に対して学習テーマごとにパッケージ化した資料を貸し出したり移動展示を行うなど、地域の歴史や文化を学ぶ機会を提供することができ、個別判定をAとしている。一方、文化財の保存・継承と活用では、天然記念物ネコギギの保全に関して本市と協定を締結する鈴鹿高等学校との連携により飼育・繁殖を行った。一方で、鈴鹿閑跡の調査については、西城壁の一部について国史跡指定に向け着実に取り組むことができた。一方で、西城壁全体については、学術調査専門委員会からの指導内容に基づき補足調査を実施しているが、一部不明瞭となっている専門的な価値づけについて、引き続き明らかにしていく必要もあることから、総合判定をBとした。
反省点・課題	
鈴鹿閑跡学術調査では、西城壁の一部について国史跡指定に向け取り組むことができたが、更なる指定範囲の拡大に向けて、確認された遺構の連続性や古代道路の位置等、一部不明瞭となっている専門的な価値について、今後、明らかにしていく必要がある。一方、歴史博物館の利用者数は横ばいであるが、目標値に向けては、より一層、暮らしや学習に役立つ展示を行ったり、より学校との連携を強めるなど、郷土への誇りや愛着の醸成につながるよう取り組んでいく必要がある。さらには、これまでのような個々の文化財等の保存重視の考え方から、それらのパッケージ化を図るなど、より活用が進むような検討も必要である。	

## 今後の展開方針

鈴鹿閑跡では、今後も学術調査専門委員会からの指導・助言を受けて発掘調査等を行い、鈴鹿閑跡全体像の把握に向け調査研究成果を積み重ねていく。一方、歴史博物館については、人々の関心や生活に身近な切り口での展示を計画するとともに、学校との連携事業では、小学校を会場とした移動展示を行うなど、引き続き、博物館と学校の連携をさらに深め、学校を通じた地域との連携の強化を図っていく。なお、このような取組をはじめ歴史文化や文化財に対する市民の関心を高めるためにも、これまでの取組や成果、事業内容、進捗状況等について、周知していく必要があることから更なる広報啓発を行っていく。

(施策の方向に関する評価)

施策の方向		文化財の保存・継承と活用						
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】			【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	関宿伝建地区内の旧田中家土蔵の修理工事を行った。ネコギギ保護増殖事業については、引き続き鈴鹿高校との連携により、飼育・繁殖を行った。鈴鹿関跡の発掘調査を実施するとともに、4回の専門委員会を開催した。文化財保存団体等の活動や次代の担い手育成を支援した。			文化財を適切に保存するとともに、市民活動団体等との連携により、その活用を図ることができた。鈴鹿関跡の一部について国史跡指定に向けて着実に取り組むことができたが、引き続き全体像の把握のため調査を実施し明らかにしていく必要がある。文化財の保存・活用に、幅広い市民活動団体等の参画が得られた。			
		まずまず進んでいる						
関連事業	番号	事務事業の名称			区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17039	鈴鹿関跡学術調査事業			主	3,900 / 3,231	A	B
	19053	指定文化財維持管理費			標	32,753 / 31,077	A	A
	19054	歴史街道遺産活用事業			標	990 / 919	A	A
	19291	希少水生生物保護増殖事業			標	2,296 / 2,240	A	A
	19068	一般遺跡調査事業			標	8,081 / 7,413	A	A
	19119	一般事業(町並み保存費)			標	2,289 / 2,202	A	A
事業以外の取組	内容						活動	成果

施策の方向		歴史博物館の活用と地域・学校での学習の展開						
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】			【左記の活動により、施策は推進できているか】			
A	活動	歴史博物館における常設展示、企画展示等を行うとともに、市内学校を会場として、地域に関連した移動展示、学習と連携した出前授業、市史料ユニットの貸出等を進めた。また、市民協働事業により、地域の団体と協働で「亀山市の戦争遺跡マップ」作成に取り組んだ。			歴史博物館が保有する市史料を研究成果とともに常設展示、企画展示等で提供できた。また、市内の学校において地域を知るための教材として活用してもらったり、地域の団体と協働で事業を進めることによって、郷土の歴史を学習する機会が提供できた。			
		順調に進んでいる						
関連事業	番号	事務事業の名称			区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	19072	企画展開催費			標	3,017 / 2,685	A	A
事業以外の取組	内容						活動	成果